

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2870200850		
法人名	株式会社神戸介護ケアウイング		
事業所名	グループホームケアウイング六甲		
所在地	(〒 657-0031) 兵庫県神戸市灘区大和町4丁目5-25		
	電話	078-821-4865	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年9月18日

【情報提供票より】 [平成20年7月10日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	21人	(常勤9人) (非常勤12人)	/ 常勤換算14.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上3階建て建物の 2階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000円	その他の経費(月額)	30,500円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (400,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	200円	昼食	450円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成20年7月10日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性3名) (女性15名)		
要介護1	9名	要介護2	6名
要介護3	3名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85.6歳 … (最低76歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	都診療所	西病院	矢野歯科
---------	------	-----	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「六甲道」駅から徒歩5分、近くには商店も多く立ち並ぶ街中にあり、日常生活も、ホームへの訪問も、たいへん便利。1階はデイサービスフロアになっており、月2回は“朝喫茶”を開き、地域の会合の際は場所を提供するなど、ホームを地域交流の場として活用し、また、地域行事やホームのイベントには互いに参加し合うことで地元地域との関わりも深まってきた。ホームの代表者はキャリア30年の歯科技工士で、「食べる楽しみ」を大切に、ホーム内に歯科診療台を置き口腔ケアに力を入れている。事業所内に歯科衛生士が常勤しており、日々の生活のなかで気軽に口腔指導が受けられることも特長の1つ(他事業所や地域からの口腔ケア講習の依頼も多い)。ホームでセラピードッグを飼っており、利用者の心の潤いにもつながっている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 同業者との交流機会を増やしてゆく予定。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) フロア会議を開き、全職員で取り組み、各階リーダーと管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、地域住民、民生委員、地域包括センター職員、利用者、家族のほか、事業主体の「神戸介護ケアウイング」の地域広報担当者と地域住民担当者も出席し、ホームの近況報告とともに意見交換を行なっている。その成果として、ホームを自治会の会合場所として提供したり、地域に対して介護保険の勉強会や口腔ケアの講習会を実施することにもなり、また、地域やホームのイベントの情報交換も行ない、地域との関係がより深まった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族や親戚、知人や地域住民との関わる機会も多く、職員配置も利用者ごとの「担当制」とすることで、利用者の状態について家族と連絡を密に取っている。家族からの意見や要望は、定例会議やフロア会議にて必ず話し合わせ、サービスの改善に役立っている。その取り組みによって、家族主体で「家族会」が立ち上げられ、連携をとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 神社の祭り、老人会の訪問などの地域行事に参加し、また、屋上での保育園児との芋掘りなどホームイベントには地元民が参加し、互いに行き来をしながら、地元との関係を深めている(“朝喫茶”のマスターも、自治会の副会長)。「トライやるウィーク」をきっかけに、小・中学校の体育祭や音楽祭の誘いもあり、何度かホームに遊びに来る中学生もいるなど、地元の子供たちとも交流を持っている。

◎社会的生活の支援

日課の、ホーム前の公道の清掃



◎その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

利用者各々に食器収納の引き出しを…



◎食事を楽しむことのできる支援

屋上菜園  
協働(食事後の後片付け)



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

セラピードッグとの触れ合いも…  
(事業主体の「神戸介護ケアウイング」はセラピードッグの支援活動にも参画)



◎居心地のよい共用空間づくり

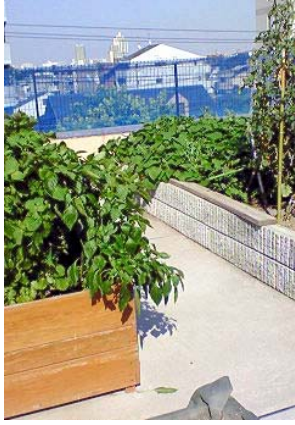
リビングもフロアごとに工夫



◎地域とのつきあい

幼稚園児からプレゼントの絵を飾り…





▲ 屋上



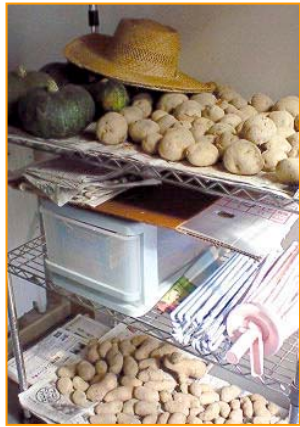
▲ 見守りの工夫（暖簾に鈴を付ける）



▲ 歯科診察台も設置



▲ 風呂



▲ 菜園の収穫物とその料理（職員との協働）



▲ 地域交流・親しみの工夫（外部の方にも分かりやすい表示）

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人として思いのまま自由にふるまうて欲しいという考えのもと、「遊化三昧」を理念として掲げ、支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者をはじめ、全職員が理念を共有し運営できるよう、独自の人材育成研修に力を入れ、コンプライアンスを高めている。朝礼や会議においても、日々その徹底をはかっている。各フロアに「遊化三昧」の額を掲げ、常に理念を意識した支援が行えるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム1階での“朝喫茶”、老人会での介護保険についての勉強会、ボランティア、トライやるウィーク、民生委員の見学の受け入れなどをおこなっている。地域小・中学校の体育祭・音楽祭へ呼んでもらったり、保育園児がホーム屋上に芋ほりに来たりと、世代をこえた交流がある。	○	積極的な地域活動の継続により、より深い地域との交流が持てている。地域の認知症介護の拠点となるよう、活動を継続して行ってほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の意義については、法人の人材育成教育により全職員に周知されており、定例会議やフロア会議において、検討・改善できている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域住民、民生委員、地域包括センター職員、利用者、家族、ホーム職員等の出席のもと、ホームの近況報告のほか、活発な意見交換を行い、運営に活かしている。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する説明会や連絡会議に積極的に参加し、情報の収集・交換を行なっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員を利用者ごとの担当制にすることによって、利用者の状態について家族との連携を密にとっている。定期的にホーム通信「日々是好日」を発行し、ホーム行事や職員の異動について案内している。	○	利用者の日常を知ってもらおうツールとして、毎月の個別の手紙の作成を検討中とのこと、実現してほしい。
0	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や親戚、知人の面会や外部者との交流も多く持っており、これら職員努力により、意見を言いやすい環境ができている。内・外部の苦情窓口は、重要事項に明記されており、意見や苦情は定例会議やフロア会議にて取り上げられ、運営に活かす仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。管理者、リーダー、職員間のコミュニケーションを密に図っている。併設するデイサービスの職員も含め各フロアの交流により、馴染みの職員と利用者の関係が増え、職員の異動等によるダメージが無いよう配慮している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営指針書の人材育成マニュアルに基づき、OJTがなされている。行政主催研修や人材育成勉強会を随時開催し、特に口腔ケア実地研修には力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学機会を設けたり、見学を受け入れることによって、相互交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅訪問し、暮らしぶりを見せてもらっている。本人や家族の要望を聞く機会を積極的に持ち、ホーム見学を通じて他利用者との交流を行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	お花やお茶など、利用者の持つ専門知識や技術を上手く引き出し、日課である犬の散歩や買い物、野菜の収穫など、日常生活において利用者と職員は家族の一員として協働し、喜怒哀楽を共にしている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族の希望や意向のみならず、生活を共にしているなかでの不満や苦情も積極的に汲み取り、ケアに活かしている。本人の意思表示が困難な場合も、家族と共に、本人本位に検討している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえつつ、各職員、医師の意見など、様々な情報をもとにケアプラン会議を開き、意見を出し合い、十分に検討したうえで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヵ月～6ヵ月に1回、特別な変化が生じた場合にはその都度、介護計画を作成し、家族に説明し同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するディサービスで行っているカラオケ、パンフラー教室、編み物教室などに参加し、“朝喫茶”には日常的に顔を出している。口腔ケアについては、事業所内に歯科衛生士が常勤しており、適切な指導と実践が施されている。	○	事業所が持つ力を地域への知識還元していただけるよう、今後も尽力願いたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師による定期往診が週1回あり、利用者各々に応じた医療を受けられるよう助言してもらっている。併設するディサービスや訪問看護の看護師によっても、ケアの方法や助言を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合、なるべく早い段階で、医師の意見を踏まえ、家族・職員が集まり、今後のケア方針について会議をもち、決定している。	○	看取り介護の指針を作成に向けて検討中である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応については、経営指針書に理念として掲げ、全職員に徹底している。個人情報には施設外に漏れることのないよう、施設として徹底管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にあるがままに生活してもらいたいという理念のもと、職員は利用者の一人ひとりの生活のリズムを把握し、個々の希望に沿った生活支援を行なっている。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋上で栽培している野菜も食材に、利用者と共に買い物や調理を行ない、皆一緒にテーブルを囲みコミュニケーションを取っている。食べにくいものについては代替品を提供するなど工夫し、食器も利用者の馴染みの物を持参してもらっている。利用者各々に食器収納の引き出しを設け(個性を尊重し)、整理されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本とし、利用者の健康状態を見ながら、希望の時間帯に入浴してもらっている。1日に2回入浴する人もおり、同姓介護を基本に、浴室には簡単な鍵を取り付け、プライバシーにも配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれに掃除や料理、洗濯などの日常生活での役割がある。セラピー犬との触れ合いや、地域の保育所、小・中学校や老人会、自治会、神社との交流も多くあり、日常を楽しく暮らすための様々な選択肢がある。ホーム前の公道の清掃も日課となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買い物や散歩に出掛けるほか、いろいろな地域行事に参加し、(事業主体である)法人主催の芋掘りや花火大会、遠足なども行なっており、利用者の希望を聞きながら支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は原則としてフロアは施錠せず、1階から屋上まで希望に応じて移動できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが完備され、年2回の消防避難訓練を実施している。全職員が市民救命士の資格を取得できるようにサポートしている。今後、地域とも災害対策について話し合っていく予定。	○	運営推進会議の場所を活用され、地域合同での訓練にも取り組んで頂きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食習慣は利用者それぞれに異なるため、個々に応じて提供している。食事摂取量は毎日チェックし、状態変化の早期発見に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関には花壇があり、玄関には季節に応じて利用者と共に花を生けている。リビングは、「2階は洋風」、「3階は和風」にしている。季節ごとに壁の飾り付けを変えるなど、心地よい空間作りを強く心掛けている。リビングでは、思い思いに利用者同士が談笑したり、テレビを見て過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族、職員が協力し、居室に置く家具や物品は、すべて自宅で使い慣れた物を持参してもらい、在宅に近い生活環境を作っている。居室は、利用者各々の好みにより畳敷きにも変更できる。		

※  は、重点項目。